

# 国際宇宙探査及びISSを含む地球低軌道を巡る 最近の動向

2022年10月21日

文部科学省 研究開発局  
宇宙開発利用課 宇宙利用推進室



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,  
CULTURE, SPORTS,

SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

## 最近の動向

- 新たな宇宙飛行士の選抜 [応募者4,127名、第1次選抜合格者50名]
- 宇宙基本計画工程表改訂に向けた重点事項決定（5月20日宇宙開発戦略本部）  
「アルテミス計画に参画し、ゲートウェイの機器開発等を進めるとともに、有人と圧ローバ等の研究開発を民間と協働で推進し、米国人以外で初となることを目指して、2020年代後半に日本人の月面着陸の実現を図る。」
- 日米首脳会談共同声明（抜粋）（5月26日）  
「枠組協定及びゲートウェイに関する協力のための実施取決めの交渉を2022年に完了させることにコミットした」
- 欧州宇宙機関（ESA）戦略ロードマップ「Terra Nova 2030+」公開（7月）  
地球低軌道、月、火星に焦点を当てた宇宙開発における欧州の主導的役割を確保し、科学的、経済的、社会的に大きな利益を得ることを目的として策定。
- ロシアのISS撤退に関する報道（7月）  
2024年以降にISS脱退のプロセスを開始。いつプロセスを開始するかはISSの状態による。  
ISSでの作業終了とロシア軌道ステーションでの作業開始は確実に同期させる必要がある。  
年末までにロシア軌道上ステーションの建設が決定されれば、第1段階は2028年に打ち上げる。
- 若田光一宇宙飛行士の搭乗するクルードラゴン宇宙船5号機打上げ成功（10月）  
2023年春頃まで、約半年間ISS長期滞在予定